十日町高校
松之山分校

香港の中学生と異文化交流
理解することの大切さを学ぶ

十日町高校松之山分校（鈴木重行校長・生徒61人）に先月24日、香港の寶覺中學の生徒が訪れ交流授業が行われた。

これは松高支援連絡会が提案している「アートによる学び」をコンセプトとした体験型講座の一環として開かれたもの。5年前から同校で講座を受け持っている青山学院大学社会情報学部附置生涯学習ラボ・苅宿俊文教授の研究室が異文化交流ワークショップを担当した。

寶覺中學からは13歳から15歳の生徒20人が訪れた。生徒は農業について関心を持ち、事前学習を積んで20日に松之山入り。10日まで滞在しながら、農業体験や大地の芸術祭に参加するなどして見聞を深めることにしている。

この日は苅宿教授が考案し、2008年にグッドデザイン賞を受賞したコミュニケーションツールビタハピを用いて交流を深めた。

これは4色を用いた様々な柄の法被を着て、同じ組み合わせの人を探し出して少人数のグループを構成する。例えば襟と右袖の色が同じ人、襟と左背中の色が同じ人を探し出すことで、お互いのコミュニケーション能力を高めることにしている。グループを構成した後は、名前や好きな食べ物やアイドル、アニメなどを紹介しあった。

苅宿教授によると、この法被は入学間もない新入生のオリエンテーションなどで抜群の効果を発揮し、仲間作りに大いに役立つという。

松之山分校の生徒（左）と交流する香港の中学生

すっかり打ち解けた両校の生徒は、スマホでの自撮りをするなどして交流を深めた。寄せ書きでは「今は楽しく、皆さん優しいです。松之山分校の皆さんありがとう」と達者な日本語を記す寶覺中學の生徒もいて、関係者を驚かせていた。

分校生徒会長の渡辺彩さん（3年）は「めったにない機会で、いい経験になりました。伝えることは難しいですが、身振り手振りで何とかできました。講座を担当した青山学院の人たちにも感謝したいです」と話していた。

苅宿教授は「人が交わると和んでいくことが分かったと思う。一方で伝えることの難しさ、理解することの難しさも分かっていただけたと思う。仲良くなることと理解することは違う。だからどうすればいいかと考えるきっかけにしてくれれば」と話していた。

9日、午後2時からは同校で苅宿教授や大地の芸術祭を手掛ける北川フラム氏によるシンポジウム、それに寶覺中學生徒による報告会も予定されている。

市内3高校生による「青春フェスタ」
8月9日、本町2広場で

市内高校生による「青春フェスタ2015」が8月9日、午前10時から午後3時まで本町2丁目広場で開催される。

中心市街地活性化を目指し、市内の3高校（十高、総合高、松代高）公認で高校生が企画から運営まで行い、まちなかを

博物館夏季企画展

終戦70周年記念の夏季企画展として、十日町市博物館で先月25日から8月30日まで「カストリ雑誌とその時代～西潟浩平氏コレクション展」が開催されている。同氏のギャラリートークが行われる8月9日、同23日は市民観覧無料。詳しくは同館（電話757－5531）へ。

信濃川アウトドアモニターツアー

信濃川アウトドア観光推進協議会主催の「信濃川アウトドア」モニターツアーが8月27日と28日、9月5日と6日の各1泊2日の日程で開催される。今後の商品企画の参考とするもので、信越トレイルの一部トレッキングや信濃川ラフティングを楽しむ。対象は県内在住の親子（小中学生限定）各10組。参加費は親子で2万円。申込締切は8月17日。詳しくは同協議会事務局の市観光交流課（電話025－757－3100）へ。

卒業後の自分を思い描く
インターンシップで学ぶ目的養う

川西高校

川西高校（滝沢卓校長・生徒194人）では、先月22、23の両日、1・2年生全員が参加してのインターンシップと施設体験を実施した。

これは県教育委員会等が策定しているキャリア教育の推進に基づいて行われているもので、同校は普通科ながら、例年就職希望者が多いことから、2年生はインターンシップを、1年生は施設体験を実施している。

十日町市と小千谷市の合わせて57事業所の協力を得て、2年生63人、1年生75人が社会人としての〝第一歩〟を踏み出した。

このうち市内中屋敷の㈱山松商店（馬場繁信社長）川西給油所では、2年生の山本優成君と丸山博士君の2人が、馬場社長らの指導を受けた。

実技に先立って、まず社会人としての心得を学び、馬場社長は「給料は間接的にはお客様から頂くことになる。魂が入っていない仕事は評価を得られず、陰日なたのある仕事は通用しない。プライベートも含めて、お客様はバックミラー越しにきちんと見ている。社会人はごまかしがきかない世界」と訓示した。

この後、同社の村山洋平さん（36）と春日裕さん（24）

スタンドで給油の仕方を学ぶ川高生